

は、万葉集にも出てくる古くから日本にある花だが、園芸品種がどんどん作られ、現在、日本だけでも二千種以上あるとのこと。「月の都」は白い花らしい。この一首、「うつむきて」がポイントだろう。

人馴れをしている鳩と雀来て神宮球場二階席は春

青山 仁

二階席にはほとんど観客がいない、そんなオーブン戦風景らしい。この鳩と雀は、神宮球場近くに住んでいて、ゲームがある日はポップコーンやフライドポテトをもらったり、拾ったりしているらしい。野球好きが、春の野球シーズン到来を喜ぶ一首。

山門は朝霧の中 湿り帯び茅葺きの門重さうに見ゆ

白岩裕子

作者の住む、鎌倉の古寺の早春だろう。朝霧につつまれた山門。それだけでなんとなく風情がありそうだが、「茅葺きの門重さうに見ゆ」が、うまい。静寂がきこえるようだ。

菜の花の休耕田のにおい来るなつかしきかな友の家
なり 中田久実子

初句「菜の花の」は、菜の花がちょうど盛りの、あるいは、一面菜の花の、といった意味だろう。菜の花のにおいと下句の「なつかしきかな」との釣り合いがいい。ただ、初句が不安定なのが残念。

子がつひにコロナにかかり自室へと食事をはこぶ我
もかかりぬ 武石いずみ

家族全員が新型コロナに感染し、十日間の隔離生活を

送ったという。この一首、たんたんと事実を叙述して、ドキュメントタッチの一首にしあげている。

公園のターザンロープが大好きな子等の知らないターザンの「声」 加藤由かり

作中の「ターザンの『声』」を知らない若い読者のために、ネットの解説を引用しておく。ターザンの映画は、無声映画時代の一九一八年から一九五八年までの四〇年間になんと三十二本も製作された。有名なのは『類猿人ターザン』（一九三二年）からはじまるワイズミュラーのターザン。元水泳の金メダリストの彼はターザンがハマリ役となった。有名な「アー・アー」という雄叫びは、豹の鳴き声など十数種の音源をミックスしてMGMの特殊効果部が作り上げたものだ、そうである。

国の名は「辺境」の意味 春昼の国旗かるたにこの
国はなし 松元雅子

ウクライナのことをどう短歌作品にするか、それぞれが工夫し、それぞれにアイディアを考えているなかで、「国旗かるた」を出して新鮮。ただ、いつの時代の「国旗かるた」なのか、ウクライナという国がなかった時代がいぶん長いので、カルタの時代は不明だが。

嗚呼そんな殺され方もあるのかと思ひて想像の中に入れえず 馬場昭徳

秋元作品と同様、ロシアのウクライナ侵攻をどう短歌にするか。情報や映像といった他者の体験とどう、どこで折り合いをつけるか。この作者固有のこだわりが読める今月の一連。この作、徹底的な抽象化が見どころ。